

準決勝 第1試合

日時：2011年7月17日(日曜日) 大会名：第25回千葉市少年サッカー大会(6年生の部)

試合会場：稲毛海浜公園

コンディション：晴れ 良好

キックオフ：10:00

対戦チーム

蘇我 SC-KS		vs	こてはし台 SC	
1	0	前半	1	3
	1	後半	2	

朝から真夏の太陽が照りつけ、気温がうなぎのぼりに上昇する中、緊張の準決勝第一試合はこてはし台 SC(以下、こてはし)のK0で始まった。

両チームやや慎重にゲームに入っている様子だったが、開始2分、蘇我 SC-KS(以下、蘇我)10番古川君が相手から奪ったボールを7番佐藤君へつなぎ最初のシュートを放つ。これはゴールを捉えられなかったが、これで蘇我は緊張が解けたのか徐々にボール回しが機能し始め、中盤での組み立ても優位に進められるようになってくる。一方のこてはしは、ボールへの寄せをしっかりと行い、ボールを奪ってからは縦を狙うシンプルな展開を意識して点を狙いに行く。この攻防の均衡が破れたのは、7分。両チーム中盤で競り合ったボールがこてはし6番梶君に渡し、スピードに乗ったドリブルでゴール前に切れ込み、相手GKの動きをしっかりと見ながらそのままシュート。貴重な先制点をたたき出した。勢いに乗るこてはしはそのままゲームの流れをつかむ。11分、12分にはこてはし10番佐藤君が持ち上がったボールに絡み6番梶君、13番仲谷君がそれぞれシュートを放つ、続く13分にも左CKからのボールを11番越智君、13番仲谷君と繋いで最後は2番天藏君がシュート。どれも蘇我4番森君、5番内田君、6番水野君、11番小河原君らのDF陣の活躍やGK1番坂戸君らの頑張りでも点にはならなかったが、ペースは完全にこてはし。蘇我も、何とか自分たちのサッカーを立て直そうとしているが、こてはしの勢いの前にどうしても味方フォローの距離がやや開き気味となるのか、思うような展開や組み立てができない。激しい両チームの攻防が続く中、こてはし優勢のまま前半は終了した。

何とか早い時間に追いつきたい蘇我のボールで後半が始まった。後半開始1分に蘇我はFKを得る。やや距離はあるが、これを果敢に10番古川君が直接ゴールを狙うも、こてはしGK21番向井君がしっかりとキャッチ。また4分には蘇我9番長谷川君もシュートを放つ。ようやく蘇我もシュートでフィニッシュと言う形が出始める。この後蘇我はFWもできるGK1番坂戸君を一旦下げ、2番木内君と交代させる。その交代直後の9分、こてはしは相手ファウルでもらったFKを11番越智君が直接ゴールを狙い、見事なキックで追加点を得る。14分には、蘇我1番坂戸君がFWとして再度ピッチへ。これで蘇我は前線でのリズムが変わり、複数がパスで絡みながらゴール前を崩してのシュートを見せ始める。しかし、一方のこてはしも2点リードとなる中で、今まで中盤の底辺りで全体をコントロールしていた11番越智君を前線に上げ、一気に突き放す攻撃態勢となる。攻撃にこだわる両チームでまずゴールを挙げたのは、こてはし。17分、11番越智君が右サイドに流れてボールを受けると、蘇我DFを個人技で交わして狙い澄ましたシュートを放ち3点目。しかし、蘇我も直後の18分、18番釘井君、9番長谷川君が絡みながら相手右サイドを崩し、最後は1番坂戸君がシュートを決め、待望の得点を得る。両社互角に見える戦いとなってきたが、タイムアップの時間は刻々と近づき、前半から勢いに乗ったこてはしが、必死に追いつがる蘇我をかわして決勝戦への切符を手に入れることとなった。

両チームとも、自分たちのチームのよさを大事にしながら、最後まで攻撃精神旺盛に戦った見事な試合であった。両チームメンバー、コーチの方々に心から拍手を送りたい。

千葉市緑区4種技術部 岡本靖弘

準決勝 第2試合

日時：2011年7月17日(日曜日) 大会名：第25回千葉市少年サッカー大会(6年生の部)

試合会場：稲毛海浜公園

コンディション：晴れ 良好

キックオフ：11:00

対戦チーム

花園 SC		vs	PBJ 千葉	
2	1	前半	1	1
	1	後半	0	

絨毯のようなきれいな芝、真夏を感じさせる太陽の日差しの中で千葉市少年サッカー大会決勝戦の切符を賭けた試合は花園 SC(以下、花園)のキックオフで開始された。

開始1分、まずは花園30番小島君がロングシュートを放つが惜しくもゴール左に外れる。その1分後またも花園17番豊山君がロングシュートを打つがゴール左へ外れる。花園はその後も16番清水君のCKから24番鈴木君がヘディングで合わせるが中々ゴールの枠を捉えられない。開始序盤から花園が猛攻を仕掛ける。

開始早々PBJ千葉(以下、PBJ)が攻め込まれる展開になったが、粘り強く守るPBJにチャンスが訪れる。

前半6分、左サイドでボールをうけた7番高野君が14番田崎君へスルーパスを送る、花園DFライン裏に抜けたスルーパスへ花園GK野木君が勇敢に飛び出すもPBJ14番田崎君が一瞬先にボールを触りGKをかわした瞬間お互いの足が引っ掛かりファールの判定、エリア内に入っていたためPBJがPKを獲得。PKのキッカーは17番福元君、福元君のキックに花園GK野木君も反応するが手を弾きボールはネットに吸い込まれPBJが先制。1点を追う展開になった花園は7番野沢君を起点に攻撃を仕掛ける。前半8分19番興津君が突破からシュート、その後も9番萩野君のクロスで30番小島君がヘディングシュートとPBJゴールに襲いかかる。前半9分花園が攻撃の中で得たCKを16番清水君が直接ゴールに突き刺し同点とする。ここからはお互いの良さを消しあう均衡した状態が続く。花園は17番豊山君、PBJは21番仲田君がDFラインの最後のところでお互いの攻撃を防ぎ、お互いシュートもなく前半終了。

後半はPBJのキックオフから始まった。PBJは後半開始から7番高野君11番森山君に代えて10番八木君20番渡辺君を投入した。後半開始からPBJ20番渡辺君がサイドからの突破でリズムをつかもうとしたが花園5番梶君に阻まれる。後半4分ゴールから約40mの位置で花園がFKを得る、この位置から16番清水君が高精度のキックでゴールを狙う、PBJGK大塚君も懸命に腕を伸ばしボールを触るがボールの勢いが勝ちゴールネットを揺らす。花園がまたも清水君のゴールで逆転。追う展開になったPBJは9番齊藤君を中心に攻撃的な展開に持ち込む。PBJ19番尾関君がサイドを突破しクロスを送るが17番豊山君がクリア、その後もPBJの攻撃が続く、17番福元君→20番渡辺君→9番齊藤君と繋ぎ10番八木君へスルーパスを送るが5番梶君にクリアされる。PBJは6番上田君、7番高野君を投入し反撃を加速させる。花園もカウンターから36番小林君がゴールを狙う。

スコアに変化のないままアディショナルタイムへ突入。PBJは8番阿部君→6番上田君→7番高野君と繋いで突破を図るが花園17番豊山君が体を張ってそれを阻止したところでホイッスルが響く。花園が接戦を制し決勝戦への切符を掴んだ。

お互いの戦う姿勢に普段からのトレーニングの成果が表現されていたと感じました。勝敗の結果だけでは測れない今後の楽しみな両チームの戦いであったと思います。

ピッチ内の気温は想像を絶するものであったであろう。そんな中、最後までボールを追い続けた両チーム選手たちに最大のリスペクトを贈りたい。

千葉市緑区4種技術部 田中英男、古田直俊

決勝

日時：2011年7月17日(日曜日) 大会名：第25回千葉市少年サッカー大会(6年生の部)

試合会場：稲毛海浜公園

コンディション：晴れ 良好

キックオフ：13:00

対戦チーム

こてはし台 SC		vs	花園 SC	
2	1	前半	1	1
	1	後半	0	

千葉市6年生の頂点を目指す試合は、準決勝の激闘を制したこてはし台 SC(以下、こてはし)と花園 SC(以下、花園)の戦いとなった。天気は快晴で気温は7月とは思えない高さの中、こてはしの K0 で期待される熱戦の火蓋は時刻どおりに切られた。

開始1分、こてはし11番越智君と13番仲谷君の連携の中からゲーム1本目となるシュートが放たれる。これは惜しくもゴール右に外れたが、花園にとってはヒヤッとさせられるシュートであった。その後、花園もじわじわと相手陣内へ押し込みCKなどを得るが、得点までには至らない。両チームの攻防が続くかと思われた開始5分、こてはしの攻撃が実を結ぶ。11番越智君が中盤で受けたボールは花園DFの裏側へ。そこへ斜めに走り込んで来た18番尾凧君がうまくコントロールして、落ち着いてゴールを決める。しかし続く6分、花園は相手ゴール正面の距離約25mはあろうかと言う位置でFKを得る。キッカーは準決勝戦でも2得点を挙げている16番清水君。彼の狙い済ましたFKは、理想的な弧を描き、こてはしGK1番岸本君の頭上を越えて見事直接ゴールイン。清水君が一蹴りで試合を振り出しに戻す展開へ。その後8分にもこてはし11番越智君がシュートを見せるなどするが、両チームともに幅広い攻撃の組み立てを行いつつも、相手の中盤での厳しい寄せに一進一退の攻防が続くという、まさに互角の熱戦が繰り広げられる。両チーム共に得点後は決定的なチャンスを作ることもできないまま、前半戦を終了。

いよいよラスト20分となる後半戦は花園ボールで始まった。その開始1分、前半にも盛んにサイド攻撃を仕掛けていたこてはしだったが、右サイドからボールを持ち込んだ6番梶君がそのまま強烈なシュートを放つと、花園GK25番野木君が懸命のセーブ、そのごぼれ玉にしっかり詰めていた18番尾凧君がこの試合自身2得点目となる貴重なゴールを決める。花園は後半開始早々のちょっとした油断をうまく衝かれる形となってしまった。点を取らなくてはいけなくなった花園の反撃はまさにここから始まった。花園7番野澤君、19番興津君、36番小林君、30番小島君、9番荻野君のオフェンス陣が連携を見せながら、こてはしゴールを狙い始め、だんだんと花園の攻撃時間が長くなる。一方のこてはしは、GK1番岸本君(途中21番向井君)を中心に3番嶋津君(途中15番堀池君)、12番白坂君、8番佐藤君、17番石川君のDF陣がしっかりと自陣で対応しながらカウンターを狙う攻撃へと変わり始める。花園はなかなかこてはしDFを崩してシュートまで持ち込むことができない。逆に9分、12分、15分とこてはしのカウンター攻撃にされされ、思い切って前線に人数を掛け切ることもできない。時間が残り少なくなる中、19分には花園30番小島君がロングシュートを放つがこれはこてはしGKがしっかりとキャッチ。結局、こてはしはこの後も攻め込まれながらも花園には1本のシュートも許さず、アディショナルタイム2分を含めた後半が終了。こてはしが見事頂点を勝ち得ることとなった。

準優勝となった花園ではあったが、全員が攻守の意識をはっきり持ったバランスのよいチームであった。優勝のこてはしは、多彩な攻撃を核としながらもゲーム状況に応じた戦術を取れる練磨のチームと言う印象であった。

猛暑の中、2試合を存分に走り切り、ベンチ、サポーターも一丸となって戦っている姿は観ていて感動できる試合であり、両チームへは心から拍手を送らせていただきます。ナイスゲーム!

千葉市緑区4種技術部 岡本靖弘